

お品書き
 1, 近況・経過報告 / 2, 会員特典強化について / 3, 今後の予定 /
 4, 夕張市石炭博物館のご案内 / 5, 総会報告 / 6, 他

[illegible]

旧石炭の歴史村ガイドツアー

7～9月の間、月に1度、石川館長による歴史村敷地を巡るスペシャルガイドツアーを実施予定です。他にも様々な企画を準備しておりますので、是非HPをチェックしておいてください。

模擬坑道の復旧について

2019年に火災となった模擬坑道の復旧工事も進み、現在は最後のスプリンクラー設備の設置工事が進行中です。契約工期を考慮すると年内の再開は難しく来春からの再開になる見込みです。



博物館のファン獲得の一助に？夕張石炭の歴史村のマスコットキャラクター「ゆうちゃん&ゆうこちゃん」のLINEスタンプを作ってみました！知ってる人には懐かしい、知らない人には新しい！ぜひ活用いただき、夕張市石炭博物館をPRしていただければ幸いです。



■5, 総会報告 ■
2024.2.18 開催

《事業報告 2023(抜粋)》

2023年1月1日～12月31日
※活動計画に対する達成度：○＝達成 △＝途上 ×＝未了
※拠点の略称:MC＝マネジメントセンター、CM＝夕張市石炭博物館

■出版事業
×できませんでした

■動画配信事業
○2022年に実施したぶらぶらまち歩きを振り返り配信を9本と、吉岡前理事長の追悼番組を1本実施。この他に炭鉄港検定事前WEB講座3本、炭鉄港ニュースタ張編5本などを配信。チャンネル開設後、視聴回数2万4千回超、登録者数350名弱。

■炭鉱遺産事業
○「ぶらぶらまち歩き」を実施
全15回+1、延べ人数464名参加
○奔別立坑周辺の利活用に向けた取組
〈奔別炭鉱敷地公開〉
GW3回、8月5回 延べ821名参加。
内ガイドツアー参加者391名。

○「炭鉱の灯り」旧三笠駅舎で実施
○各種活動団体等との連携強化
炭鉄港に関係する団体との取組増。

「銀の馬車道・鉱石の道」連携と交流事業参画／空知シーニックバイウエイ審査団視察訪問／全国町並みゼミ小樽大会分科会パネリスト参加／他多数

■学術支援事業
○歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流継続に向けた取り組み
太田清澄氏と島津忠裕氏の2名が当事業団の顧問に就任／5月島津興業社長来岩／9月平野理事長鹿児島訪問
○地域シンクタンクとしての展開
太田顧問講師による「まちづくり講座」／シビックプライド探求部による「まちづくりゼミ」／「聴く炭鉄港」ピアノコンサート開催／「学ぶ炭鉄港フォーラム」開催
○教育機関との連携
受け入れ、講演、現地ガイド等において、市内外15校、延べ525名対応

■市民団体連携事業
○《炭鉄港》などを通じた他管内の機関・団体との連携⇒来訪や講演、ガイド等対応 10団体延べ674名
○国内外の関係者・団体への対応
炭鉱や《炭鉄港》について問い合わせや取材など、多様なアクセス対応。JR東日本「大人の休日」取材／NHK番組取材奔別同行／札幌ストーリームホテル炭鉱めし相談／等、全12団体対応
■拠点活動事業
○そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの質的充実

マネジメントセンター入館者 23年1月～12月 4,446名。ガイドانس対応のほか気軽な立寄り場として機能
×会員による運営支援の試行
実施できず
○石蔵での企画
岩見沢三十六景スケッチ画展／撮りフェス in 室蘭 2022 受賞作品展／石蔵ライブ／北海道遺産巡回写真展
○その他

第二回炭鉄港検定&炭鉄港講演実施／イオン岩見沢店「岩見沢の鉄道と炭鉱の歴史」、第二弾写真パネル展「ここにも？あれも？炭鉄港」実施
■ヘリテージツーリズム事業
△東武トップツアーズ、炭鉄港推進協議会等から、炭鉱跡地ガイドツアーやまち歩きツアーの企画相談対応

■石炭博物館事業（ダイジェスト）
○指定管理業務の着実な実施
吉岡前館長の急逝に伴う運営体制見直し（石川館長ほか理事の交替助勤体制、地域おこし協力隊員派遣継続）。石炭博物館の5年間の指定管理者更新の初年度。有料入館者数の目標は13.9%下回る⇒コロナ禍明けで多様な観光資源への分散が進んだことに加え模擬坑道再開延期による夕張来訪意向の相対的低下の可能性あり
○博物館の質的充実に向けた展開

特別企画展「炭鉄港 リ・スタート」等の開催／「館内無料ガイドツアー」の実施、「七夕の願い」、「パベットゆび人形」など、石炭、夕張、炭鉄港の情報発信拠点として多様な取り組みを開催。その他、各種団体等の催事への参加・協力、メディア取材受け入れを実施。

■会務
△会員サービスの充実
会員限定の動画視聴設定完了。イベント等での会員価格設定の達成。会員交流会等を模索したが未達。
△企業賛助会員の拡大
積極的な企業周りができず。しかし増える傾向で推移。
○会員数
2023年12月末 総数＝379名（昨年より36名増加・2022年末343名、2021年末344名）／運営会員＝58名（昨年より5名増加・2022年末53名、2021年末51名）／一般会員＝293名（昨年

2023年12月31日の財務状況			
単位：円			
科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現 金	585,019		
普通預金 ゆうちょ銀行	1,155,142		
郵便振替口座	1,262,699		
普通預金 北洋銀行	1,835,949		
普通預金 空知信用金庫	156,695		
普通預金 北海道労働金庫	9,349		
普通預金 北洋銀行〔石博〕	4,384,961		
現金・預金小計	9,389,814		
貯蔵品	252,188		
前払費用〔家賃〕	150,000		
未収収益〔模擬坑道電力料〕	361,973		
流動資産合計		10,153,975	
2 固定資産			
建物付属設備	199,100		
工具器具備品	1,582,022		
減価償却累計額	△ 1,565,953		
有形固定資産小計	215,169		
敷 金	50,000		
出資金〔空知信用金庫〕	50,000		
投資その他の資産小計	100,000		
固定資産合計		315,169	
資産合計			10,469,144
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金〔電力料・社会保険他〕	1,073,784		
未払費用	546,328		
預り金	510,855		
未払い法人税	822,800		
未払い消費税	707,800		
流動負債合計		3,661,567	
2 固定負債		0	
固定負債合計		0	
負債合計			3,661,567
III 正味財産の部			
1 前期繰越正味財産		8,738,747	
2 当期正味財産増加額		△ 1,931,170	
正味財産合計			6,807,577
負債および正味財産			10,469,144

より27名増加・2022年末266名、2021年末269名）／賛助会員＝28社（昨年より4社増加・2022年末24社、2021年末24社）
○新たな経営戦略と運営体制の検討
それぞれの経験と知識を活かし、分担して業務を行う事ができた。

《事業計画 2024(抜粋)》

■出版事業
・炭鉄港公式ガイドテキストをベースに新たなガイドブックの出版を目指す
・夕張市石炭博物館公式ガイドブックの出版を目指す
■動画配信
・当NPOの活動を身近に感じていただくと共に、炭鉄港等の価値の向上に資するYouTube動画配信を継続実施
■炭鉱遺産事業

■財務諸表■
所感:夕張市石炭博物館の入館者が目標数を下回った影響もあり、決算でマイナスが発生していますが、新年度は盛り上がりを見せている日本遺産「炭鉄港」との相乗効果と、より一層のPR、夕張市内連携構築を進め、来館者の増加を目指します。また、各種催しやマネジメントセンターの運営に関しても、事業計画に基づき、参加者・利用者に喜んでいただきながら経済的価値を生み出していけるよう様々に取り組みを進めます。どうかご支援ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

活動報告書 2023年度決算・24年度予算			
科 目		2023決算	2024予算
経常収益			
	受 取 会 費	2,307,797	2,300,000
	寄 付 金	207,470	200,000
	事 業 収 益	31,728,068	31,300,000
	補 助 金	1,471,953	600,000
	そ の 他	241,539	0
	経 常 収 益 計	35,956,827	34,400,000
経常費用			
事 業 費	人 件 費	15,075,479	13,620,000
	各 事 業 費 計	20,421,190	15,300,000
	小 計	35,496,669	28,920,000
管 理 費	人 件 費	1,380,000	1,380,000
	そ の 他 経 費	188,513	3,100,000
	小 計	1,568,513	4,480,000
	経常費用計	37,065,182	33,400,000
当 期 正 味 財 産 増 加 額		△ 1,108,355	0
法 人 税 ・ 住 民 税 ・ 事 業 税		822,815	1,000,000
当 期 繰 越 正 味 財 産 額		△ 1,931,170	0
前 期 繰 越 正 味 財 産 額		8,738,747	6,807,577
当期正味財産		6,807,577	6,807,577
単位：円			

・ぶらぶらまち歩きの実施
・奔別立坑周辺利活用に向けた取組み
・各種活動団体等との連携
■学術支援事業
・歴史的経緯を踏まえ鹿児島との交流
・地域シンクタンクとしての展開
・教育機関との連携
・日本遺産登録再審査に向けた支援
・各種フォーラム等の開催
・炭鉄港まちづくり講座の継続

■市民団体連携事業
・《炭鉄港》などを通じた他管内の機関・団体との連携協力
・国内外の関係者・団体への対応
■拠点活動事業
・そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの質的充実と認知度向上
・会員による運営支援の試行
■ヘリテージツーリズム事業
・必要に応じた協力を実施

■石炭博物館事業
・博物館の体制強化
・博物館の質的充実に向けた展開
・模擬坑道再建への支援、再開準備
・夕張市内の回遊・入込向上施策
・特別企画展「夕張鉄道100年」ほか各種展示及びイベントの開催
・館内ガイド、まち歩き等の開催
・教育関係行事等への支援・協力
■会務
・会員サービスの実施（会員特典の充実、研修の機会）
各種会員拡大に向けた取り組み
・そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター開設15周年記念事業の実施
■理事選任
本年は理事改選の年ではありませんが、下記議案が提出、可決されました。
熊谷隆文氏の理事退任に伴い、新理事として松田建夫氏が就任。